世界婦人

●本誌は世界主義を標榜して婦人解放を主眼とす

●女子大に讀むべく男子盛んに讀まさる可からず

結婚と人種問題

赤羽生

今の世の中には、愛情の無い夫婦が充滿して居る、御互に好きも好かれもせぬ者が、唯だ肉慾の衝動を滿足させる爲めに、犬か猫の樣に結合して居る夫婦が決して尠くは無い、地位の爲め、黃金の爲め、生活の爲めに、乃至は虛榮心の爲めに、無愛情の冷かなる屍骸を抱いて滿足して居る男女が無數に在る、如此き夫婦夫れ自身の不幸不運は言ふ迄も無いが、此れが爲に蒙る社會の損害に到つては殆ど測り知られぬものがある。

瑞典の閨秀文學者エレー、カイ女史は、結婚は人生の重大事なり、國家社會の爲に新なる生命を造るの門戶なりと言つて居るが、成程結婚が男女の愛情を根本として行はれたらば、如此う結果にもならうが、肉慾と生活問題（地位、黃金、門閥等を包含す）とを中心として行はれて居る樣な、今日の結婚制度では、國家社會の新なる生命を造る所では無い、却つて日々、國家社會の生命を害して居る、何故かと言へば、愛情の無い夫婦は、矢張り愛情の無い人間を產むに過ぎぬ、而して愛情の無い人間は決して國家社會の新なる生命活力とはなる事は出來ぬからである。故に我々は、愛情のある、仁心に富んだ高尙な人間を產んで、此の社會國家に新なる生命元氣を注入せんとする爲に、どうしても自由戀愛を主張せざるを得ない。

無愛情の結婚が社會に及ぼす惡影響は元より非常であるが、其の中でも取り分けて恐るべき惡影響は產兒に對してである、飲酒家の子は矢張り飲酒家になる如く、狂人の子は矢張り狂人になる如く、無愛情の男女が產む子は矢張り無愛情の輕薄漢とならねばならぬ。而して無愛情は社會萬惡の根本であつて、貪婪、兇暴、欺詐、刻薄、頑迷、傲慢、嫉妬、猜忌あらゆる人間の不義惡行は、皆其の源泉を無愛情より發する、さうすれば、我々は此の罪惡に滿ちた社會を進步發達さする必要上、愛情を結婚の第一義とせねばならぬと思ふ、既に愛情を結婚の第一義とすれば、愛情に依て結合接着する自由戀愛が道理に叶つて居るとは言ふ迄も無い。

我々は、今の社會を觀察する毎に常にかう思ふのだ、今の社會に殘忍刻薄なる人面獸心の奴輩の多いのは、畢竟、無愛情結婚制度の當然の產物であると、茨に無花果は實らない、瓜の蔓に茄子は生らないとすれば、黃金や、地位や、權力や、門閥に眼が眩れて結婚する樣な男女間に碌な人間の生れる譯が無い、虛榮を王冠の如く尊んで、愛情を泥土の如く賤めて居る暗愚なる女子と、黃金を神樣の如く拜んで、人格を奴隸の如く蔑んで居る輕薄なる男子間に、立派な人間の出來る筈が無い、故に現今の結婚制度を此の儘にして置いて、國家社會の改良を圖らんとするは、恰かも山に入りて鰻を釣らんとするの愚者である。

我々は必ずしも結婚なる字句に拘泥するの要を見無い、今日迄習慣上用ひ來つたけれども、必要が無ければ捨てゝも宜い、要は唯だ眞に相愛する男女が自由に結合すれば宜いのだ、夫れを結婚と稱しても宜い、又稱し無くても宜い、自由戀愛と云つても、生活問題が男女の愛情を强壓して居る、今の社會では、中々容易に行はれるものでは無い、男子と女子とが經濟的平等の地位に達しなければ男女問題は解決せらるゝものでは無いとアドリン、チャンプニーは言つて居るが、眞に然りであつて、自由戀愛も或は左樣云ふ時代にならなければ、十分には行はれまいが、兎に角、今の世の中でも相愛する男女が精神的戀愛的に結合すれば夫れで自由戀愛は成立するのだ。

女子は人種の母であると古人は言つた、若し女子を人種の母とすれば、男子は人種の父であらねばならぬ、此の父母を愛情のある仁慈に滿ちた立派な父母としなければ立派なる子女の生るゝ事は期し難い。現在の社會は腐つて居る故に之を改革せねばならぬ、而して之を改革するには勢ひ現在の社會から着手せねばならぬ、ソコで我々は、現在の腐敗せる社會を根本的に改革して、將來善美なる社會を建設する爲めに、社會主義を唱ふる如く、今の人種の父母なる暗愚輕薄なる男女を陶冶し教訓して賢明溫良なる未來人種の父母たらしむるべく、自由戀愛を唱ふるのである

宮崎民藏氏土地復權遊說の途上にて

五月雨の雲路さまよふ時鳥
明日はいづこの空に鳴くらん

心影

神川松子

何れの世にも革命家の生涯は荒涼慘憺たるものである。棄平心血の濺りと雖も、皆悉く冷笑のうちに迎へられて冷笑のうちに送られ、駁擊の下に苦しめられて駁擊の下に葬らる。とても〳〵一生を透して快陽麗日の恩典に預かることは夢にだもない、いづれは冷たい獄窓の裏夢に世の不道を罵る時もあるのだ。暗愁な狂激な、悲慘な人生の活歷史は、宛然革命家の心事を繪けるものである。されど堅牢的確たる信念はいかに大なるものもこれを屈撓することは出來ない。胸奧の魂惱、革命の信念これ正しく我がライフの骨髓である、われはこの骨髓を措いて他に何等の生命はない、畢世この骨髓を到達せしめんがために、あらゆる駁擊にも打ちかち、幾多大敵とも健鬪して、倘ほ從容自若以て天命に倒るゝのである。よし落寞たる板胸撫するに友なく、深更夢枕吾を抱くに愛人の腕なくも、革命の信念はつねに吾を撫し、われを慰め、われを導くの生命である。

親しき我が友はすべて情花の美を語る、而かも人は終生性花を外にして生存し能はざるの故を以てす。されど友！　嗚呼親しき愛友!!　革命の烽火に生死を誓ひし身に情花の美を以て春夜の行樂を語るを止めよ殘忍極惡、虛僞暴戾、不義惡德の世に、情花の美を求むるは愚かの至りである。夜々淸高純美の影に憧れて、戀の熱腸に情炎をそゝるものは、顯世の人に語るべく、あまりに淸く、あまりに遠く、あまりに高くある寧ろ語るのつらさを知つて語らざるの是をさとる。今は唯人界吝として、自然の溫懷に對す、求むるものは戀にあらず、ホームにあらず、名與にあらず、富にあらず、たゞ〳〵革命の魂膽我が半百の生涯の骨髓たらんことを希ふのみである。

邂逅

友

（一）
夕べおもひにみだれつゝ
出でゝ暗行けば
しばらくは馴れつゝ道
ちよと曲がる路地

（二）
「もし」と呼ぶ人の聲あり
身は緊と抱かれぬ
「何なす」と問ふも憂き我が
驚きに夢のごと

（三）
「ハ」とおもふ間に臥しゝて
兄もさに泣く乙女
「兄さん」と呼ぶは我が妹
耻ぢて狂はふ

（四）
勞はりつ伴いて
宿に來て見れば
花の色香も失せぬ
「オー」妹や…

（五）
「許して」とわめくなば
「やめよ」と曰ふに
「拂へ、涙な、我が妹よ
ゆめ耻らへそ」

（六）
おもへばわれら兄妹
別離れて三年
憂の世の運命さや
たよりも絶へぬ

（七）
我があと追ふて來し
妹が身のはて
惡ましき色の鬼
あゝうたてや

（八）
流されし深川
浮きつ沈みつ
悔韃の岸べより
這ひあがりてし

（九）
出でゝと逢ふ今宵
あひみる兄妹
泣くなやめ、耻らやせそ
春賣りしなら

（十）
見よ今の世の罪人か
全生を賣らずし
生活しつゝありやあ！
呪はしの現世や

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

内外時事

●女子復權會

日本に在留せる淸國革命派の靑年中、今回『女子復權會』なる者を起し、雜誌『天義報』を發刊せる者あり、『天義報』は『固有の社會を破壞し、人類の平等を實行するを以て趣旨と爲し、女界革命を提倡するの外に於て兼て、種族、政治、經濟、諸革命を提倡す』と宣言し、『女子復權會』は左の『簡章』を發表せり

一、宗旨●● 女子世界に對するの天職を確盡し、數千載重男輕女の風を力挽す

二、辨法●● 女界に對するの辨法二あり、一に曰く、暴力を以て男子を强制す、二に曰く、壓抑を甘受するの女子に干涉す、世界に對するの辨法二あり、一に曰く、暴力を以て社會を破壞す、二に曰く、主治者及び資本家に反對す

三、規律●● 政府を崇信するを得ず、男子の驅使に服從するを得ず、身を降して妾と爲るを得ず、數女を以て一男に事ふるを得ず、初婚の女を以て男子の繼室と爲るを得ず

四、道德●● 耐苦、冒險、知恥、貴公、正身

五、權利●● 入會の後、享くる身の權利三あり、凡そ己に嫁するの後、男子の壓制を受くるを本會に告げて、之が復仇を爲す可し、凡そ男權に抵抗し及び社會に盡力するに因つて死する者は、本會之が表章を爲す、凡そ男權に抵抗し及び力を社會に効して危險に罹る者は、本會の救濟及び保護を受くるの權利あり

六、義務●● 入會の後、盡す所の義務三あり、結婚離婚均しく本會に報告すべし、入會の時、一元を納捐し、嗣後每月一角を納捐す、入會の後、本會の勢力を擴强し、會員を紹介すべし

七、會員の資格●●●● 凡そ本會の規律を實行する者は均しく會員たるを得

八、總會所●●● 日本東京牛込區新小川町二丁目八番地天義報社

さすがは支那人とて隨分をかしき節もあり、又たやすく賛成し得ざる箇條もあれど、兎にかく其の意氣の壯なる、日本人中には到底見得べからざる者あり

●女學生の服裝問題

過般某縣下の各女學校に於ては、敎員會の決議を以て生徒の服裝を制限せり、曰く化裝する勿れ、曰く袖の長さを切れ、曰く廂髮を斯々すべしと、此事識者間の物議となり攻擊頗る喧ましかりしと云ふ。之れ當然必須の事なり何故に女子の身をのみ特別にあれのこれのと拘束するか、陋劣なる哉天下多數の男子階級根性に囚はれたる愚盲の敎員、彼等は女子を賤弃する他何等の能なきなり而かも見よ人生進化の階程は女子をして其地位に達せしめ、今日女子を侮辱せる彼等は他日史上の事實として、彼等自身を侮辱せざるを得ず、想へば痛嘆に堪へざるなり嗟男子界擧げて愚劣なり、彼等は婦人の將來を知らず、現況を辨まへず、而して女子の大多數も亦自覺せざるなり、自覺なきを以て前者は蹂躪し、而して後者は盲從す、吾人は宜しく主張に努めざるべからず

●似て非なる婦人解放

先般博覽會場內なる水晶館に朝鮮婦人を雇ひて某樂器を取扱はしめたる處、同國留學生之を目擊するや激昂し、遂に大袈裟なる抗議を持込み、結局は其婦人を解雇して歸國せしむるに至れる由、爰に彼等留學生は自國の婦人を使用するは無禮なりとの理由を以て、宛然彼女を解放したるが如きも實は之れ未だ婦人に對する束縛の一種に過ぎずして毫も解放の意義なきものなり、如斯を以て婦人解放と思惟する者、現下獨韓人のみにあらざるなり

◉田中翁及谷中村の消息

●田中翁の控訴事件　去月八日の公判廷に於ける證人諸氏の辯論及青木檢事の態度並びに田中翁の言論等は既に諸新聞紙上に報道せられたり其後十三日遂に無罪の判決となれり

●谷中村民の行政訴訟　元の村長鈴木豊三の不當課税即ち前年に比して俄然三十八倍强の村税を課したるに對して曩て訴願せるも却下となり居たるに付去十四日更に縣知事中山已代藏を相手取り行政訴訟に及びたり

●縣廳より誡告書　村民の言ふ事を一寸も聞かざるは勿論全々盲斷にして無理非道の法律適用は愈々曲の偏に進行し來りて既に收用審査會も勝手に終り今や村民「立退」に關する誡告書なるもの降り來れり。即ち去十二日栃木縣第一部長及び四部長外警部二人巡査十五六名立會の上谷中村民を役場に召喚し「來、二十二日迄に自分の家屋を壞ち村內を退去すべく若し應ぜざる時は官人夫を以て之を壞ち其費用を追徵すべし」されば決して心得違いの無き樣篤と讀しみ拜命せよとて去らしめたり

●村民の決心　然るに谷中村民は沈靜平靜毫も引き退く色もなく却て益々强硬なり、縱令如何に悲しく恐しき境遇に沈めば沈め政府既往の惡逆——六ヶ年の破壞迫害をして其爲す處に應すべき、いざ打たば打て殺さば殺せ吾等は斷然不退去を胸底深く刻みて動かず、二十二日後の谷中村こそ注目すべし

●强制處分の延期　二十二日は二十七日となる

●田中翁の言解　「二十七日まで延期せし所以のものは當方より願ひたるものにあらず兎に角目下麥の收穫期なればさて注意せしな知事が寄たるものに過ぎず農繁の時を撰びて立ち退かしむる如き惡政なればなり云々」

●官吏等の離間中傷　狡奸なる官吏等は今猶有効なる斷の法を用いて人民を陷落せしめつゝあり殘民戶二十二の最も健固なる一團中、島田政五郞間部吉滋渡邊長輔茂呂松右衛門の四人は變節せりと聞く此四人は同字の者にして兎角官吏等の目星をつけ居たる處なり吾人は強らに變節の文字を用ふるを好まず何となれば現政府の爲す處の實に惡に於て有効のものなれば谷中問題にありても第三者が思惟する如く最後まで忍ぶ事は偽める村民の強ちに堪へ得ざる處なればなり然れども所謂變節せしめたる官吏てふ非人間は惡みても猶足らざるものなり

●去廿三日の村民　は延期に對する協議を凝せしが或る者は「自ら我家を壞かん」と云い或る者は「官吏の爲すに任せよ」と言ふ何れも「小屋掛して何時までも去らぬ」との精神は共通なり而して遂に「官吏の爲すが儘に任せ置き破壞されたら小屋掛する事」に一決したり

●警官工夫の解散　藤岡町に集ひ居たる警官五十五名工夫八十名は解散せりといふ因みに記す廿三日は谷中村殘留民家破壞の日なればとて埼玉茨城地方より見物に來れる者多かりしが警官等要所を擁して通行せしめず宛然戒嚴令を布けるが如し伊香保より木下尚江氏來り本社の福田女史も赴きしが終始角袖の尾行うるさかりしぞ

●首相の小說家招待

前に俳優連を招待して樂しめる首相西園寺氏が今回は二十餘名の文士を招待して文學雅會を催せり而して追々は其他の文學者をも招待する由なり所謂趣味に富める總理閣下などは何をしやうと幸ひにお好み次第なり招待を蒙れる者の榮譽又惟ふべし

●銀行の敗滅瀕々

本年三月以來六月に至る迄營業停止若しくは休業或は全く瓦解したる國內銀行の數既に三十有四五、而かも猶は他に敗散の運命を有するもの幾千あるやを知らざる有樣なり之れ恰かも德川幕府の前に群雄四方に蹶起して孤城に天下を睥らみしも遂に甲乙相踵で倒れ次第に降りて天下は德川のものとなりたるが如き樣なり敗滅の銀行は凡て微々たるもの丶みにはあらざれども要するに從來割據せる各自の位置は天下極めて小數なる大資本家の手に奪はれざるを得ず斯くして岩崎王國三井王國は皇國を代表し何が何でも其實權を握るものなり彼等は將に萬民生殺與奪の權を稱得すべきなり

●萬國平和會議

去る十五日和蘭の海牙に於て萬國平和會議開かれたり議長は巴里駐在露國大使子リドフなり而して萬國仲裁々判及び軍備縮少問題は會議に對して別段危險を與へざるべしと云ふ一般の意見なりと聞く然るに爰に無政府黨員は會議場を爆破し參列委員を鏖殺せんとの風說もある由なり

●露國議會の解散

露國首相ストリツピン氏は議會に向て十六人の議員を逮捕し且五十五人を革命黨なりとして起訴せんことを要求したるも事整はず十六名は捕縛せられ議會は遂に散解せられたり其の詔勅を讀むに要する處露國民は未だ議會に於て國政を議するに適せず………依て解散を命ず………議會を以て政府と爭ふの機關たらしめ殊に暴動者に同情を寄するに大權を以てせりと而して其の改正撰擧法に依れば(一)撰擧人の年齡制限の度を高め(二)高加索及西比利亞撰出の議員の數を減じ(三)亞細亞國境諸州の撰出を全然排し(四)總員五百二十二名を減じて四百四十二名たらしめたり次期召集は露曆本年十一月一日なり

●露國暗殺の陰謀

議會の解散後隊伍を作りたる陰謀者即ち露帝より見たる兇徒等の既に居城の中庭に忍び入れる者三十三人ありたるも發見せられて縛に就けり其の共謀者は數百人ありと云ふ

金員募集

谷中村民一百餘名の爲め

前項記載の如く、村民は斷然去らずとて動く色さへあらざるに、官吏は法律なりとて無理にも引き出し、追ひ退けんとす、後ろに暴力、前に貧窮、斯くて彼等は立ざるべからず。想へば吾人言葉なし、嗟彼等は如何になり、何處に行き、而して如何に落着くべきや。希くば敬愛する讀者諸君、能ふべけんば御隣人の御同情をも乞ひ玉はらば感謝に堪へず

府下角筈七三八
世界婦人社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

貴族的根性を去れ

貴族的根性は、無智と無情の結晶、封建時代の遺物、虚榮の奴隷が眞髄とせる所謂階級的精神である

或有名な牧師の奥様は、出入の八百屋さんでも、牛肉屋さんでも、誰にでも横柄にお呼び棄になさる。道路で車をお召になる時も「オイ車夫」と寂いもので、そして唯だお言葉がお荒いと申すばかりでない、何んな車やさんにでも、必らず賃錢をお値切りになる、私しは強ち「値切らない」主義を採る者じやありませんが、まあおへて見ても戴きたい、人前でこそ「妾共は貴族的な眞似事は出來ません」なぞと被仰るけれど、其裡面、御自身様は兎も角も絹もの揃へなんでせふ。若し眞心があつたなら、車やさんを責めて五錢や七錢値切らないでも、何とか遣繰が出來るじやありませんか

又或奥様は、表面では女中さんを可愛がりなさる様だが、併し、随分と少ない給金で、なか／＼澤山の用をさせなさる。私しには、給金を多くして用を少なくすると云ふ事を強ひる譯ではありません。けれども、無い中からでも心さへあらば都合は附もので、況して出來得る都合を出來さずに、用ばかり多く言い附けて、給金は何時も同じと云ふのは、餘り世俗的お憐愍ではありますまいか

併し私しは徒らにアラを探して理窟をコネたり、非難したりする者ではありません。「志しのある處に道あり」「魚心あれば水心」ありと云ふ二つの言葉を味ふて觀いて、仕事が多ければ給金を増し、自分で出來る事は女中さんの手を借りないと云ふ事にしたいのです

今の社會では「賃錢」を以て「人間」を買ふのです、そして之れを怪しみ考ふる者は殆んとありません聖書に「愛は凡ての徳の帯なり」と書いてありますが、然うです。畢竟は「愛」の足らない爲めに斯様不都合な社會が破はれずにあるのです。而かも愛、愛と口に言ふ人や、主義、主ぞと筆でばかり唱へる人達が、眞當に愛に燃えてゐる人達を罵り、賤しめるといふ有様です。私しは申します、「愛は階級を破壊す」と。「人間」が「金錢」で賣買の出來る社會は斯る醜劣の社會です。愛は斯の社會を破壊せずには休みません。で私しは更に讀者諸君に申します、何卒、かの憎むべき貴族根性を一掃する爲めにお努め下さい、女中さんや、車屋さんや其他弱者の位置に居る人達の爲めに、單に弱者の爲めとではなく、「人間」の爲めに他人の爲めでなく、自分の理想の爲めに深く／＼思ひやつて戴きたい

キリストの言葉に「人を役ふ者となる勿れ」と云ふ事があります、此一語以て今日の社會に破滅の宣告を下し、人生の社會的理想境を示めして居るではありませんか。「人を役ふ勿れ」とは、故て女中を雇ふなとの意味ではなく、又單に車に乗るなとの教訓でもありますまい、併し「人の上の人」となつてはならない、人を使役してはならない、人を奴隷にしてはならないとの意味であります

女中は錢で買ふた器具ではありません。車夫は車賃の爲めに奴隷となるべき者ではありません。併し今日の社會經濟の根本組織、其組織を保存してゐる精神が惡るいから自然「人間」其ものが「賃錢」其ものと交換されて居るのです。悲しむべき次第、惡むべき社會ではありませんか

虚榮心の憎むべき所以は、階級的精神即ち貴族根性が惡るいからであります。其の賤しむべき所以は、虚榮心のある爲めに其人をして神々しい處迄向上せしめないからであります。

婦人雜誌記者倶樂部例會

▲六月十五日芝公園婦人博覽會場内に於て催されたる、我が社に取りては二回目なる同會は、福田神川兩女史及遠藤生之に列席し、集まれるもの總て三十名餘、今回は婦人の就職問題に付て協議する筈にて愈々一同列座するや、先づ愛國婦人會に關係を有せられし手島氏の良妻賢母主義は鳴り初たり、如何にも陳の陳、腐の腐なるものを而かも眞面目に且つ雄辯を以てせらる。獨立の爲に女子に職業を與ふるは以ての外なり、唯聊か後日離緣された時若しくは夫早世の後を支へる爲めにするの方針を以て學問なども加減すべしと之れ以上に出でざりき。

▲次に某氏徐ろに起ちて手島氏の職業云々は實行不可能なりと云ふを以てす。續いては毎日社員たりし白井君は、獨立と孤立を差別して孤立は可くないか獨立は是非共必要なり、良妻たり賢母たり得る女性は宜しく獨立の實力なかるべからずと、其れより猶一二の卓說ありて彌々神川女史の順となれり

▲神川女史は慨然先づ手島氏に當り、良妻賢母の愚說を痛激し且つ女子をして飽くまでも「人間」視せず、爲めに現代女子の愚劣柔弱益々其度を加へて而かも自覺遠く俗眼の裡にあるの實況を掲げ以て男子の俗見を反駁し、經濟的獨立を主唱して婦人の絕對解放を叫び、それには職業を取らざるべからずと喝破せらる。之れに就て某氏は立て而して曰く御婦人自身の口からソンナ御議論を承はるとは今更驚けり云々と驚けるこそ驚かしき事に猶其演說を聽くに曰く、婦人は妻たり母たるべき事あるのみ、故に職業を知るべからず、況んや喋々議論を試むるが如きをやと、勿體らしき振舞なるを、更に神川女史の駁々あり

▲然るに其駁々の優しくも熱誠籠めて語られしを、例の女雜誌記者中川某氏は屁理屈を止め的の獨語を洩らして、さも不眞面に嘲けるを、司會者に對する福田女史の注告ありかれこれして更に散らんとする火花は當時おだやみぬる折柄、中川氏の座を立つや特はりて都新聞員なる某氏の肥滿大兵の紳士は現はれいぬ、斯くて其人曰く、色々の御說身を益せるものげに多大なり、予は舊約聖書中（斯の人クリスチャンらし）男子は泥をもて造られ、女子は更に其の造られて完成せる人間より作られたるものなる記事に依り、女子の男子よりも優さ者なるを信ずとて、一時バイブルが諸科學と衝突したる事あるも今は然らずとまで附會して、面白相に切り廻はし、更に曰く、諸君！女子に職業とは何事ぞ之れ男子の口より出でたらんには取りも直さず男子其自身の恥辱にあらずや、其故何ぞや曰く女子は開闢以來職業に從事し今尚之を繼續しつゝあり、見よ子を生むにあらずや子を產むてふ大なる一の仕事を有するにも不拘更にモ一つ職業を與ふるとは狂たらずんば愚、然らずんば惡なりと滔々として數萬言

▲然れども氏の雄辯の流れ出でしその源泉や果して如何。吾人は曰ふ、氏の說たるや、ヤッパリ女子は男子に服從して否旨從して臺所は都、宗道中を是認せよと滑らかに守して眠りに就かしめんとするにあり。見よ氏は其他何をも言はず、婦人は子を生む大業ありと雖も彼女は其外に臺所の大仕事をも引負ひ居るにあらずや、其他の雜用揚げて數ふ可からず。而して子を生むは獨り女子のみに屬する職務にあらず、成程月經と言ひ懷胎と言ひ身體に及ぶ生理的責任の特別なるものあればとて、現に其他の多くの厄介を擔當し居る以上、單に婦人は子を產むが業なりと呼ふる能はず。されば氏の說なるや、奇に類して而かも俗なり、況んや是認し得べき新見ならんや。之れ等しく婦人を人間視せず、因襲の裡に視むなる妄見を以て、彼女を閨中の玩具化し強ひて其處に押殺し去らんとするものに他ならず

▲婦人雜誌記者倶樂部の例會なるものは斯の如くにして終らんとす。其の最初の試みなる婦人の就職問題には手未だ染めずして一先づ會合は了れり。他に婦人の出席者五六名ありしも何等の說あるを聞かざりき

▲吁東都の婦人雜誌記者、即ち右の如き男子諸士なる記者、之れ恐らくは日本全國有數の記者たるなり。而して日本の婦人界は之等の人士の感化誘掖の裡にあるなり、想ふて此處に至る多少の感なき能はず、吾人の見を以てせば該例會に列席ありし記者諸君の多くは、未だ婦人の何ものたるを了解せず、單にそれのみならず、眼前の世界に婦人解放の問題あるを知らず、新時代の婦人を知らず、然り社會の何ものなるかをも知らざるが如し、遂に婦人職業問題を料理するの資格に疑問を呈出せしめてやまんとす、然れば豈に吾人之れに女子就職の意義及其現象の過去將來を求めんとするは頗る愚なり。予輩の見にして誤らずんば、予輩こそ他界の迷路に徘徊しつゝあるものならん。之れやがて「時」てふ大能者が審判せんとする處なり

▲談笑はり、婦人博覽會の調査部にて一同洋食の晩席に就く、三拾錢の會費にして意外の御馳走ありしものは博覽會理事長の君の厚意によれりとぞ

▲折角の事なりしも時刻既に過ぎて會場は閉ぢられたれば、博覽會は觀ずして去る

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

宗教家の弊害

高島生

或る宗教家に非常に淫蕩な一人の娘があつた。父は自分の位置を思ひ、又娘の身の上を考へて、苦慮に苦慮を重ね、或は祈り、或は思索へ色々の力を盡し方法を施して、娘の罪惡を洗滌しやうと企てたけれども、ドウしても治らなかつた。其れもその筈、實は其の娘の多淫と云ふのは不道德だとか、不信仰だとか云ふ所から來たのではなくして、彼の女の身體に一の病症があつて、其爲に色々の精神現象が釀されて遂に右述べた樣な淫蕩になつたので、其の父が此事に氣が就いて、早速醫者に察て貰つた所が、娘は直ちに治つて、極めて柔順な、そして健固な美しい、十人なみの娘になつたと云ふ事が此頃或る書に見えて居た。凡て智識の洗禮を受けない道德宗教は皆[illegible]態ものだ。世の宗教家や道德家は、一も二もなく罪惡だとか、悔改めだとか、救はれるとか何とか云つて苦悶懊惱して居る樣だが、實は其の大部分は智見の足らない所から起るのであつて、彼等がモー少し識邇になり熱心になつて智識の光明に照されたならば、道德や宗教は今日の如き不自然な、不健全な、無理な、厭やな、諦め的で氣持の惡い怪物にはならなかつたであらう

今日の社會組織を知らないで、徒らに蛙鳴蟬騒してゐる宗教家、道德家も亦之と同じ事である。彼等は今日の社會は如何なる者であるかを知らないものである之を知らないが爲に、折角の道德も信仰も現社會と云ふ惡魔の巨口に呑まれて終つて、何の用をもなさないのみか、時には害を加ふるのである。戰爭が始まる、赤十字社の事業が繁昌する、青年會が活動する、本願寺が騒ぐ、成るほどみんな可いかも知れん、彼等は之を以て愛の發動と誇つて居る。併し乍ら彼等にそれ丈の愛があるならば、何故に彼等は今少し奮發して戰爭の絶滅を叫び、之に全力を注がないのであるか。慈善事業も惡くはあるまい、孤兒院も感心だ、感化院もよかろふ、而し斯の如き感化院や孤兒院をば續々として作らなければならない今日の社會なるものは、一體何うしたのであるか。孤兒を憐れむ彼等慈善家は、何故に孤兒を生ぜしむる今日の社會の組織其者を惡まないのであるか

要するに今日の道德家宗教家は餘りに無智である、從つて小膽である。信仰が横領し過ぎて、遂に僞善になつてゐる。彼等が若し今日の社會の何物なるかを解する事が出來、且つ其愛の光明が大胆てふ管を通じて發現したならば、彼等の有する宗教道德を以て、現社會を改革し、人心を指導する事が出來るであろふ、智見に照されざる宗教道德は、却て人類社會の發展を妨げ、之を毒するものである。

惡政の權威に屈伏せられ、兇暴の手先に使役せられて、徒らに現狀を滑らかならしむる一個の都合よき傀儡師之れ今日の彼等宗教家道德家の俗物觀である

されば、虛僞、醜惡、盲動、去勢的なる現社會の道德宗教を悉く破滅せよ。而して赤裸々なる現社會其物を解剖し來れ。吾人は姑息なる道德、宗教に頼る前に、先づ虛僞を排さし、掠奪を絶させる「現在」其ものを知らなければならない

傳道

孤舟

朝に一人、夕にも亦一人
漸く二人は三人に見え
日を月を主義にいそしみ
年の終りの友や百人
我生の事終り來ん日まで
夢怠らすばすー

人生と結婚に就て

遠藤友四郎

（一）愛情と戀情

人生の理想若くは希望を指して、之を戀と呼ぶ者あれども穏やかならず。故郷を戀ふ、父母を戀すと云ふも亦當を得ず、戀情は兩性間特有のものにして、吾人の宗教的對象、道德的理想、及詩的神境に對する情操とは別に獨立す。且つ愛情も亦戀情にあらざるより。吾人々間の愛情は徹頭徹尾神秘的特色を有す、然り斯の神秘の裡に、生命の種々なる活動あり活動其ものは廣義の愛也。其の活動たるや目的あり、遂に達すべき究極あり。而して活動の尤も深刻にして且つ神秘的なるものをして戀情なりとなす、諸他は皆枝葉なり。屬性的なり。

戀は無戀の境に達せんとして活動す。愛は戀の隨に在りて其粹を有す。されば戀情を滿足して、始めて愛情は充實せらる、愛の全きものは獨り戀の裏に秘めらるゝなり。戀情の活動を妨ぐるものは道義にあらず、理想にあらずして社會人心の病弊なり。此故に眞乎の失戀は人生の破滅なり

（二）道愛と戀愛

吾人は道愛と戀愛の別に鑑みて、更に學ぶ所あらんとす。道愛は則ち友愛にして戀愛は則ち性愛なり。一は道德範圍にありて他は然らず。戀すれば必らず愛するなれ、さばれ、愛すれば必らずしも戀する事やなし。戀愛ありて、道愛生じ、道愛ありて必らずしも戀愛はあらざるなり。戀愛は原理的、根本的にして、其範圍狹く、道愛は二次的、啓發的にして、其範圍廣し。戀愛は純自然にして、道愛は稍自然なり、然れども共に人性の活動にして心理的事實なり。女子に對する男子にして、縱令彼は妻として彼女を戀愛せざるにせよ、姉妹として親しみ、友として道愛の契りに居らざるべからず。然り友とし、姉妹として、道愛の親しみにありながら、而かも敢て戀愛の交はりに入らざるなり、道愛は人的、社會的にして、戀愛は性的、個人的の要素によりて成る

（三）二種の夫婦

夫婦とは、結合せる一夫と一婦を稱す。之れに二種あり、其一は戀愛によりて成れるものにして、其二は道愛によりて居るものなり。道愛によりて居る夫婦にして軈て戀愛の缺乏を感ずるも、互に道愛に於て相離れず、而かも猶足らず。戀愛によりて成れる夫婦にして、軈て道愛の缺乏の故あるも、戀愛に於て相去らず、而かも猶乏し。其足らざるものと乏しきものとは、未だ充全せざるに固るや必せり。夫婦は其底に一にして二なり、二にして一ならず。げに一體の實は空なり。戀愛の自然は自由にして、道愛の自然は自制なり。而して自由の戀愛によりて結合したる一夫と一婦とが、更に互に道愛に充ちて、始めて圓滿なるを得ん。故に倘し強いて夫婦てふ實體を求めんか、以上の要素なかるべからず。然れども人生果して、其の要素を充實すべけんや。その要素を缺くにも拘らず、强いて夫婦即ち　夫一婦を第三者に於て附體せしめんとするに至つては、其愚や退くべし。然り一夫一婦の制度を立て、客觀的に夫婦を作らんとするに至りては、其非や破るべきなり。

（四）結婚の要素

結婚は成るべきものにして、作るべきものにあらず。而して其の依て成るや、不可缺の要素あり、戀愛則ち之れなり。而して結婚は戀愛の目的にあらずして、單に其の目的に達する方法あり。換言すれば戀愛は、結婚に依りて人生の意義を完成せんとするものなり。故に結婚には主觀と客觀の兩義あり。而して戀愛の性質より觀る時は、客觀的結婚は無意なり、且开は戀愛と共に併存せず。然るに主觀的結婚に至りては、之れ戀愛と共に永存す、寧ろ戀愛其もの、動體なり。故に結婚の意義たるや、單に主觀的なる時に有り、然らば結婚は、遂に或は有名無實に終らんか、然り戀愛其ものは即ち結婚に外ならず。是に於てか、嚴密なる意味に於て、結婚の要素たる戀愛と言はずして、戀情と謂ふ可きなり。戀情の純なる要素より成熟したる戀愛は、之れ即ち結婚なり。而して其の兩性は夫婦なり。然るに人性は今猶未成中にあり、進化の前提に在り、發展の前途を有す。換言すれば有限の生物なり。而かも無限を追求し、絶對界を憧憬す。斯くて心意は天候の如く、戀情は恰かも潮潮の起きあり。故に一夫一婦の結合を保たんとする、須らく道愛の補助なかるべからず。玆に於てか更に結論あり、曰く、結婚の要素は戀情なり、然れども一夫一婦の基礎は道愛なりと。而して吾人の所謂完全なる夫婦とは、戀愛の經に道愛の緯あるを要す。之れ遂に自由にして無主義、超道德の自然美を織り爲す一系に外ならず。

（五）離婚と失戀

以上より推して、爰に離婚の内容を究むれば、等しく客觀及主觀の區別に逢着す。然れば離婚必らずしも失戀にあらず、況んや。人生の破滅ならんや。主觀的離婚は之れ戀愛の消散なり。而して主觀的離婚とは、夫婦共諾の離婚を指す。故に失戀にあらず悲劇にあらず、破倫にあらず。單に戀愛の消散のみ。然らば離婚の悲劇とは何ぞや、破倫とは如何。即ち客觀的離婚之れなり。人か物か吾人は問はず、總て第三者に依れる離婚は悲劇にして非人道なり。此種の離婚の繁殖たる社會は極惡の社會にして失戀の社會なり。失戀社會の破滅たる是革命の業に屬せり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

農家と理科（四）

増田操

何の作物を栽培するにも種子の撰擇を第一にすべきは今更余の言を待たざる所であるが種子は後日作物體となるべき原素なれば最も健全純良ならねばならぬ若し種子にして其質不良混雜のものならんか收穫の多量品質の善良得て望むべからざるものである諸君見給へ種子には何人でも芽のあることは知らざるものはないが肉眼にて見る時は只芽のみである、されど余は前說の如く其植物全體を含んで居るものなれば良き穗を得て良き收穫を取らんとすれば即ち良き種子を蒔かねばならぬ勿論良き種を蒔いたからとて必らず良き穗を得るものにあらず栽培の巧拙にも關すれども始めより良くして置かねば良き結果の生ぜざるは物の順序である、其撰擇の方法や種々ありと雖ども例令へば稻に就て一粒播、一本植は種子採收用として有利なる方法にして此方法に依つて得たる種子は其形大にして且つ重さが故に種子として最も良いのである而して一株の内に於ても穗には便宜上種々なる名稱がある、其中軸より生じたるを親穗と云ひ以下を子穗孫穗と云ふのである、又此等の區別に依つて出穗開花に數日の差等がある、穗の形に於ても通例親穗は大きけれども孫穗は小さい、開花も亦親穗は早くして孫穗は晩い、故に親穗のみを種子に撰用すれば早稻に變じ孫穗を採取すれば晩稻に變ずるの傾向がある其種類の性質を維持する上に於ては親穗孫穗の兩極を除きて子穗を以てすれば其固有の性質形狀を完備するものならん、されど一穗の内にても秕などありて悉く種子として適當なるものにあらざるは勿論多量の種子を採らんには稍不適當なるやふなれども種類を改良せんとする場合若くは原種の良いのを採らんとするには以上の方法に依つて撰擇すれば良いのである

從來農家には唐箕を用ひ又は水を以て種撰法の慣行われども尚ほ種子中には强弱混雜するもの多く其儘にこれを播けば發育中に於て强は弱を壓し弱も又强に續びて共に完全に發育するを得ない、其强弱相等しき多量の種子を得んとするには鹽水撰が良い成程唐箕なるものは風の力を以て種子の重量に從ふて選別するものなれば一寸良いやふなれども人工を以て風を起し吹ひて輕きものを方に重きものを片方に居らしめ更らに輕きものは風に飛び去らしむるものなれば完全とは云ひ難い又水選法の如きは水の比重は通常攝氏寒暖計四度の溫度に於て純粹の水一立方「センチメートル」（三分三厘立方）の重さを一單位とし即ち水の一立方「センチメートル」の重さは一「グラム」（二分六厘六毛）なれば其比重は一、〇〇となしそれより以下も以上も共に比重低きが故に嚴寒の候に於て或る種子を水選すれば効驗あるべけれども要するに比重一、〇〇より高き種子には水選を行ふべく其他の種子には完全なりとは云へぬ假令へば稻の粳籾の比重は概ね一、一九、糯籾の比重は一、一四なれば純粹の水選では効がないのである故に水の比重に鹽類を溶解してこれを加重し其溶液の度を粳籾に於ては一、一三、糯籾に於ては一、〇八の比重とし斯の如き鹽水の中に少量づゝ其籾を投入して攪拌すれば秕など比重の輕きものは浮き上り稍や輕きものは中途に浮動するものである、これ等を掬ひ去れば比重の一定したる種子を得るのである、こんなことを云へば科學思想に幼稚なる農家に於ては手數が面倒だと小言を吐くものが往々ある、種子の良否を精選すると否とは直ちに農家經濟の利害に著大なる關係を有するものにして一たび不良のものを播下すれば如何に栽培に手を盡すも恰も人類の不具者に向つて常人の勞働を强ゆるが如く其効なきのみならず一種の疾病を釀して完全に發育しないものである、又鹽水選も左程面倒なるものでない假令へば適宜の桶二個と其桶に入るべき圓筒形にして細目に造りたる笊一個、細目の篩などを用意し一個の桶に鹽を入れ水を加へて激しく攪拌すれば鹽分は容易に溶解するものである而して其溶液分量如何を檢するにも種々なる方法あれども代用比重計などを以てすれば簡便にして確實であらふと思ふ、この器の構造や何人にも分り易く該器の或る度に米ならば米、麥ならば麥と作物の名稱を記して適當の度を示しあるが故に撰種に際し其器の沈下するまで鹽分を增加して鹽水を製するのである、この液中に笊を入れこれに種子を投じ攪拌して浮きたるものをば篩にて掬ひ取り殘留せる種子を笊と共に引き揚げ尚ほ一個の桶に淸水を入れ置きこれにて洗ふて附着せる鹽分を去り筵などに擴げ水分を去つて播種用に供すれば良いのである。

東北地方の婦人（承前）

門田紹葉

▲●●●●習慣と惡弊

東北の婦人界には、惡るい習慣と、弊害とがある。勿論、これは中以下のものに見る所であるが、朝餉が濟んで、役人ならば出勤後、日傭取ならば働きに行つた後、商人ならば店頭に出た後、其所の奥さん、嚊天下、妻君などが、フイと外へ出掛けて、お茶をよばれたり、よんだりして居る。漬物のお茶受けで、人のざんぞ話し（善し惡しのこと）に、小半日も無駄に暮して、米の相場も知らずに居るとは、幸福であるやら、不幸であるやら。澤庵漬や、菜漬でお茶をがぶり〳〵呑んで、遊んで居ることは世に知られて居るが、この習慣は、仙臺を中心として、岩手と福島の一部に見るのである。而して此地方の婦人は、決して他人のことを好く言はぬ。誰れにでもケチをつけたがる。人の立身を喜ばぬ、誠に始末におへないのである。嫉妬、猜疑、怨恨の甚だしい彼等の社會に投じやうものならば、終に悲境に陷れられて、泣いても吠えても及びが附かないに至るのである。例へば、他府縣から轉住して來た人が、交際はねば氣取るとか、澄して居ると、か直ぐに彼此いはるゝのである。斯んな呑氣な、馬鹿氣た交際は出來るものでない。

岩手縣の一關から程遠からぬ所に、前澤といふ町がある、その近鄕に蘇民祭といふが行はれる。この夜祭には、その地方の惡習慣、惡風俗が遺憾なく發揮されるのである。何と云ふ野鄙なことであらう、この夜は村郎村娘が遊びに出る（發語するのでない）ので、村郎は村娘を奪ふて、隨意にするのである。村娘は村郎の意に隨ふべき、義務があり又義務を完うして、始めて成人したる如き考へを持つて居る。これは公々然たる一の習慣である、又惡弊である。されば此夜警察では、この惡弊を矯正するの一端として、又風紀取締上の必要からして、非番巡査まで召集して、嚴重に取締るのであるが、群集より巡査の提灯を目蒐て、石や瓦を擲けつけて、死傷者を出すことがある。憂てき極みではないか。二十三夜の月待の宵に、仙臺附近の子女が、宮城野原に群集して、操を破らるゝも少くない。又婚禮の當夜、花嫁を擔ぎ出して、散々ツぱらなぐさんでから、送りとゞくるのが禮であるといふ、嘘らしい禮を尙ぶところもある。斯んなことは、幾ら擧げても、たゞ嘔吐を催ふすのみであるから、二三の例證に止めて置く。

▲●●●●早婚と强請

女子が利害關係の爲に、結婚を强られて、一生涯を味氣なき、境遇に『犧牲』となりし身の不幸を泣き、これが親孝行ならばと、諦らめて居るものゝあるは、獨り東北地方にのみ限らない、到る處比々然らざるなしである。其んな譯ではなからうが、東北地方では、未だに舊慣を墨守して居つて、頑固な親々は本人同志の、顏を知らない者すら、無理矢理に結婚せしむるのである。尙且にも、厭だとか嫌ひださか、これに對して、不服らしいことを云ふものなら、親不孝だの、氣儘者だの、何んだ角だと頭ッから潑せかけらるゝのである。されば、これが爲に夫婦間に、絕えず種々なる問題が起つて、互ひに相愛して、樂しく一生を終焉することも出來ず、破鏡を嘆ずるに至つては、實家に戾つて、馬鹿のリコウのと言はれ親兄弟の厄介になつて居るうちに、決して導いてさばかりはなく、却つて女の身を過らしむることが多い。これ等は少しく考ふべき問題であらうと思ふ。又一般に早婚の傾きがある。殊に村落が甚だしい、農家などでは、娘が十四五歲になれば、嫁にやり婿を迎ふると云ふ有樣である。これも、多くは利害關係の上から來て居るので、家内少の農家では、傭人を省く爲に、娘に婿を迎へて、働かせるといふのである。利といふもの、前には、何ごとも顧みないのである。英國のチエバセー博士は、結婚は二十四五歲から三十歲までの間が、適當な時期であつて、決して强ゆべきものでないと云ふて居る。博士の說によれば、東北地方の結婚は、隨分危險であつて、これが爲に社會に影響することが、人の氣附かざることで、數限りがないのである。

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

花のゆくへ

きつき子

（一）

只新潟の女と云ふ丈で、氏や素姓も知つたものはなかつたが、本郷追分の日出館と云ふ下宿屋に頗る付の美くしいのが居つた、名は確か春と云つた。眼はパッチリと愛嬌あふれて威儀り、口元しまつて買し難く、鼻條の品もよく、色艶はくつきりと白く、きめは細く新潟女の模型とも云ふべく、脊もすらりとして、低からず、高からずの中形であつた、

止宿してゐるもの、話に、約婚の夫の出征中を出し貰つて、常々目を懸けてゐた富豪から貰ひに來たので、親が無理に勸めるのが辛さに逃げ出して來たとも云ひ、又夫を慕つて看護婦になつて戰地に渡らうと思つて來たが、不案内の地でそうこうする中、親切らしく云ふ老婆に欺かれ衣類など絞り取られ、今更おめ／＼歸國るわけにもゆかず、進退窮まつて、吾妻橋から身投をしやうと云ふ所を、宿の主人に救はれたのだとも云つた。新聞や號外を熱心に見たり、話といへば戰地の事を云ふのを見ても、人の噂も萬更虚言の樣でもなかつた。

卒業したばかりの學士達や、今年卒業しやうと云ふ文科、醫科、法科の三幅對と云ふ親友も大騷ぎをして、なか／＼の優物じや目白にもあんなのはない、どうだ我々の中に手に入れるものはないか、君に周旋しやうのと、寄ると觸るとお春の事で持ちきつてゐる樣であつた。

自分は好奇心に驅られて、いつかお春の身の上を聞いて見たいと思つたが、上品な職業正しい下宿屋の女中とは思はれぬ樣な、素振のお春に逢つては何とも云ひ得なんだ。お春のゐる譯でもあるまいが、三十八年の正月自分が日出館に來てから、かゝら他に移つた人は一人もなく、他から來たのが二三人あつた。

自分は毎年夏は避暑か歸省かに定つてゐたが、其年の夏は妙に下宿を出たくない、何となく氣懸りでこう／＼一夏は暑苦しい四疊半の下宿で過ごした。

（二）

世は秋になつた、日露戰爭はルーズベルトの媒介によつて、平和の終局を結ぶ事になつた、突然九月五日の夕暮日比谷附近の官省官邸を中心として、市中の警察交番は燒討と云ふ凄まじい騷ぎに及んだ、自分は何氣なく高等學校前の交番の焰々と燃えつゝあるのを散歩の序に悄然と見て居つた、明治大學の制帽は不幸にも自分を賜つて、警視廳送りとした、取調べて國民大會の發起人に知人のあるといふ筋で、罪無うして東京監獄に呻吟せねばならぬ身とはなつた。人情の氷の樣に冷い、いやな牢獄に入つた、五日目に下宿からの使と云つて若者から夜具迄差入れて、面會を願つて呉れたのは思ひがけないお春さんであつた、その後一週に一度は何か差入れに來て會つて呉れた。

見る物といつては、砂ッ原の運動場か、人を犬猫の樣に、扱ふいやな看守の獰面かより外何んにもない監獄にお春さんを見るといふ事は本當に嬉しかつた、地獄で佛に會つてもよもやこんなに嬉しからうとは思へぬ位、そして只綺麗であると思つてゐたその人は實に温情に溢れて、物云ふ口元は自分を吸ひ込んで仕舞ふかと思はれた、いつもお春さんの來た日は、いろ／＼と彼女の身の上や何か想像して短く日を送つた。

たしか十二月の中頃であつた、面會に來て約婚の夫が凱旋して還るから、親許から還れと云つて來たと話した事があつた。

是れから正月にかけてふつつりと面會にも來て呉れなんだ、今更に入獄した樣な心細い感じがした、二月十三日正午に看守は「新潟縣小千谷町蒲原春子」といふ一葉の端書を見せた、千蔭流の達筆で探用に美くしく、「身を殺してまで待ちし其人は逃亡とふ恐ろしき罪に、御國の筒にはかなく露と相消え候由夢心地に候、いづれ住うき此地心のみは都に候、公判はまだに候や御察申上候」とあつた。

彼女を殘して行けば誰でもそんな氣にもなるであらう、それ程に想ひ合つた中をと、痛く、神系を刺激されて、夜も睡れなかつた。爾來屡々慰さめてやつた、向ふからも訴へて來た、それは只亡き人を戀ひ慕ふ切なる情であつた、自分は夫を亡くした妹に對する樣であつた。

自分は四月に證據不充分といふので無罪放免になつた、監獄から廻送して來た手紙は實に意外であつた、「女心の弱かりし事今更お恥しく消えも入り度き樣に候」と云ふに筆を起して、

「親に逼られ豪家に行く事は强情な罪しながら忍はねばならぬ、人の只一片の親切にほだされて、親をも殺し自らも泣かねばならぬ運命に立至つた始末を一讀して將來は愛情も趣味もない家庭の空寅に泣く事であらう、百年の苦心は水泡に歸した」、

と見るも憐に書いてあつた。

。　　。　　。　　。　　。

或時は「やさしき友の懷しさに、え堪えぬ迄に都の空の戀しくて」など云ひおこす事もあつたのに、漸く美くしかりし二人の友情はこゝに全く消えてしまつて遂にその人の身の上を委しく聞く機會もない唯行末はどうであらう。

ヂャンの最期

和泉生

荒神橋を渡つて眞前に廣小路の電車通に出やうとする兩側には、高い煉塀を續らした和洋折衷の大きな二階建が幾々と聳えて、雨天のため今朝は平素よりも別けて閑靜である。右側の建物から洩れて來るのはピヤノの音、唱歌の聲、嬉々とした乙女の笑聲などで、宛然手に取るやうに聞える、が左のは餘りに沈靜なので一寸首を捻つたが其もその筈、今日は日曜日である。學生に取て之ほど嬉しい日は外にあらうか？氣が付て見れば自分も實は、此日を樂しく送らうとて、そぼ降る雨を冒して、自分を生みの子の如く愛して呉る、知人の宅を訪はんために出て來たのである。左は洛陽高等女學校右はその寄宿舍

ピヤノ、唱歌、笑聲之れ皆面白く美しく自分の耳朶を打つた、寂寞たる寮生活に倦み疲れた自分は、天の音づれでも聞くやうな氣になつて暫時歩みを止めて之れに耳傾てたが。忽ち胸の裡には何となく「可哀想に、氣の毒に」といふ感がムラ／＼と湧いて來る。戀しい父母兄妹を去り、温かい家庭を捨て、懷かしい故鄕と別れて見知らぬ都の空に月を眺め、冷たき牢獄の如き寄宿生活をせねばならぬ彼の若き女性は、噫如何にその小さき胸を押へて人知れず袖を濡らすとであらう、舍監てふ石の如き者の横暴刻薄に涙を吞むで、道理ならぬ堪忍をなし、當然享くべき權利も奪はるゝと幾度であらう、憐れの女性よ、青春談笑を以て僅かにその寂寥を慰せんとするか

斯う心の旅に想ふて自分は、トボ／＼重き歩みを電車の通路へ運んで右に折れた。向つて左は人家なくして綠なす並木越しに御苑の老樹が、寄る年波と共に湛へ得た威風を示してゐる。ピヤノの音は漸々遠く唱歌は愈々微かになつた。不圖頭を上げると遙か向ふの方、電車線路に方つて、何が嬉しいのか黑斑の小犬が擦りに宙がへりをしてゐる、人が近いても逃げも爲ない。雨の降るのに陽氣な奴よと思ふたは自分の淺見、彼は殘忍なる電車のために天賦の肉體を傷けられて苦悶してゐるのだ、頭から顔にかけて宛然熟柿の皮を剝いたやう、頸は上下くい違ひ、眼球は蝸牛の抜けかけたやうに抜出し、紅血は迸れて地面を染めてゐる、苦しさにピク／＼する躰は漸々不動になる。心配想に車掌のやつて來るを待て彼は、無限の怨恨を呑むで最後の呼吸をした。彼の首輪を見ると「△△飼犬ヂャン」と記してあつた、あゝ薄命なるヂャンよ

直ぐ右手の門構への家はヂャンのそれと知れたので車掌は、怖々と門を潜て行つた。が間もなくテツプリと肥つた快活さうな女中と共に出て來た。夫と知つた女中は顫狂聲して「奥さま、ヂャンが轢かれましたよ」と呼ぶ後から小走りに出て來たのは、芳齡二十四五にもならうか色の白い丸顔な未だ何點となく書生風の抜けぬ奥さまが「アラー可哀想に」と忽ち顔を脊向けて仕舞つた

車掌が何か言つたのか「捨てゝ下さいな」と又奥様が言ふ。「可哀想に捨てゝ下さいな」さても妙な「可哀想」と自分は感つた

ヂャンを悼み車掌の身の上を慮ひながら自分は立去らうとすると北處には、早や小さな黑山が築かれてゐた。五六間ばかり來て脊をふりかへると帯劍の小使君も來てゐる、警八風を吹かせて車掌に何事か糺問するのか例の手帳を出したらしい、車掌は數度頭をペコ／＼してゐる

「巡査だつて車掌だつて同じく資本家の奴隷だ、好い加減にすりや良いのに。官吏だなぞと威張る時代ぢやあるまいと獨語しながら自分は、左に折れて御苑に這入つた。

その後車掌に何麼運命が降掛つたか、忠義を盡したヂャンは何處に葬られたか遂尋ねる機會もなかつた

（完）

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

社友の消息

▲谷中村より　縣廳では愈々來る二十二日、を以て打壞して仕舞ふそれ以後に殘つて居る者は引捕へて摑み出す雨が降ろふが鎗が降らふが介意わないとやら一部長とか四部長とかの訓諭だそうな所謂餘す所僅かに八日……村民平靜、官吏と稱する獸類の暴力の下に運命の赴く儘にまかせるつもりである。躁急なる小勇を避けて沈着する大勇を養はねばならぬ。（六月十四日）星野孝四郎

▲伊藤證信氏より　追々暑くなつて來ました御勵精之程感謝致します小生不相變無事に暮して居ますから乍餘事御放心下さい……谷中村救濟金募集の事當地某氏傳へ聞かれ小生に其送附方を依賴致され金壹圓渡され候に付本日小爲替を以て御送附申上候……中略……乍末筆毎月雜誌御寄送難有存候御議論益々鋭利痛切敬服之外無之候生等の之によりて啓發薫化せらるゝ事多大奉謝候（六月十五日）

▲田中正造翁より　罪無き者無しとなりたればとて一も得るものなし昨年六月以來此苦しみを享け今に至りて漸く罪無しとなれるのみ而かも一方には大盗を捕へ得ざるの恨み多し國民の損害頗る大なるものあり諸君にもよろしく（十五日）

▲赤羽巖穴兄より　其後は失禮して居ます御身體は如何ですか御大切になさいませ遠藤君によろしく（六月十五日）

▲岩崎革也氏より　田中翁の無罪宣告紙上に報せられ擧手喜悅と安神仕候女史始め遠藤君御同悅之至と遙察いたし申候連日の梅雨陰晦の際この好良之事局を聞き青天白日之感に御座候至誠强剛の老義士彌々益々健在を謄るものに御座候眞に面目の躍如たるや御會讀の折には宜敷御傳聲を乞ふ女史御健雄の事と慶賀いたし候野生不相變樗櫟中の病身洵何とも慚恨無限候この頃は山居し細雨濛々不順の氣候なれば一層困り申候折角御自愛を遊爲道御靜立是禱（六月十五日）

▲金子喜一氏より　未だ御目に懸りませぬが主義の爲め種々御働きになるので御名前は能く存じて居ります……近時ば『世界婦人』御發行の由今井歌子君より一二部頂きまして通讀致しました呉々も日本女性覺醒のため御盡しある樣ねがひます、さて私共も時運の要求に鑑み今回上記の如き題名の一小月刊新聞を發行しますので是非御助力を望みます、と申しますのは是非一文を願ひたいのです……中略……御經驗で充分御承知でせふが獨力でやるのは困難ですけれども主義を以て戰ふは愉快です……何しろ此種の銘うつて出る社會主義の女性雜誌は世界にまだ一つもありますまい、以下省略。シカゴより（五月三十一日）

▲大石緑亭氏より　久敷御無沙汰……世界婦人毎度面白く拜見……何か寄稿致度存居候處ロクなもの出來ずためらひ居候……來月十五日發行の分に『裝飾論』と云ふ一文を差上可申候（六月二十八日）

▲谷尾水紫君より　……地方購讀者が少ないので申譯のない樣な氣が致します併し多きもの必らずしも大ならず微なるもの必らずしも小ならず……石川兄の御災難……主義の爲め甘んじて鐵窓の下に幽寂なる日を送り給ふ身の心情を察しては……泣かざるを得ませんされど之れ……言ふべからざる神秘の愉快と信じます……社會揚けて反目する幾萬億の瞳、鬼の如くに異樣の光を放つ只中に一人巍然をして動かざる犧牲の肉一片……懦夫として立たしむべきものがあります……大阪平民、社會新聞……一滴の水よく大河奔流……之を十指以て制せんとする愚……實に盲蛇に似て而かも滑稽に候……赤文字摺發止非常に嬉しく存します此方がしつかりして結構です……舊思想よりも恐ろしいものは婦人に取りて資産家階級の存在ではありませぬか！（編者曰く資産家とは資本家地主の事にして其實は盗産家を謂ふ）さりながら最早婦人界覺醒の日も近い事と存じます、良妻賢母とは社界の専横者に盲從する屈辱卑隷に命すべきの名……（以下省略）（十二日）

讀者の書信

▲……（前略）前金切れしにも不拘引續き御發送御親切のほど身に泌みて有難く……毒煙濛々たる中に雄々敷反抗の叫聲如何に勇ましきよ惰夫所詮斷死の外なきを倍々御奮鬪あらん事こそ……（十一日）島根縣那賀郡濱田町　舟木一義

▲拜啓私は初號より愛讀致して居るもので御座いますが……中略……御誌月を重ぬる程面白く〳〵拜見いたして居ります本號始めの四人と云ふのを見ました時は何ともいへぬ感じが致しました此頃は嘸陰氣な監房の中に淋しく日を過してゐらせられませうと思ひますとほんとに〳〵御氣の毒に堪へません、これからは時候も惡しくなりますから何卒々々御からだを御大切になさいますやう偏に希望いたします、そして主義の爲めます〳〵御働きなさいますと私共みんなの希みで御座います……（以下略）十三日　備中上房郡松山村　藤森波留

▲——世界婦人、汝は殘忍なる社會と橫暴なる男子に極力反抗して永く〳〵戰はざるべからず其使命や重且大なり今や汝は燃ゆる情熱、鋭利なる武器を持ちて戰線に立てり社會の迫害何する者ぞ男子の壓制何するものぞ汝に正義人道ありされど想へ戰鬪の資力たる豈汝自身の健全てふ武器にあらずや自愛せよ努力せよ世界婦人——十九日　磐城國相馬郡松ヶ江村　岡田寛

●東西の社會主義新聞

「大阪平民」は月刊（二回）にして今や二號を發し、「[illegible]會」は週刊にして既に四號を出しぬ、細々とやるは前者にして、堂々と往くは後者なり、一は京都に結を攜げ、他は四國に堂を放てり、彼れには濟製盗るれども之れにも元氣先つ前者は立ちて後者は斃ふ、彼れが編まんさするや、之れは追はんとす、彼れは能く論じ、之れは能く議す、斯くして存する東西兩主義新聞の將來や如何、之れ我が愛友の前途にして兄弟が往く經路なり、希くは共に破滅を怖れて生きながらの自滅を避けよ、弁は却て道に益なければ殺されて生くるとも誤りて死する事無からんか、主義の生命は盲者の腐肉を喰ひ盡して敵は爲めに味方と化し、味力は爲に力となり力は遂に全城を蹴かん哉　e t 生

●谷中村へ寄贈

一金壹圓也　周防國伊藤證信氏を經て某氏

●婦人博覧會

婦人博覧會さも聞けば、今日の世柄にて婦人の見せものにてもあるかの如き感じやせん、借ては虚榮心挑發の機關にやと見もせんうちの瀬づきはそもそもの間違なれ、こは婦人の職業の摸型を示めし、其種類を列べ、女子の技術、能事の如何に發展するかを展覽するものぞかし日本國の最も金目高き編物は大部分婦人の手に掛れるさ聞く、されば婦人業の有力なるは今更ならぬ事にして、其業につきかれこれと取立つる要はなし、唯此會の時節日に多數民の生活を縦からしめ、婦人の獨立を告ぐるの期に會し、特に婦人界の必然的産物として見るも、頗る趣味あるものにして更に婦人の奬勵となり、摸範となり、斯くして眞に先づ婦人をして避くべからざる境遇即ち男子の奴隷たるの運命を脱せしむるに有益なり、而して一方には良妻賢母など云ふ饒語を打破すべく、男子を背後に瞠着たらしむ天才も發揮され、且つ事實を以て兩性問題に議案を與へ、婦人解放の叫びの一小體とも云ふべきものあれば婦人は申までもなし、男子も亦觀て以て參考に供す可きなり（江さ子）

小説　志士の末期（譲二葉亭主人）
次號に掲載

●靈か肉か出でたり

木下尚江氏の新作、靈か肉かの上卷は生れたり、全編綴て十七章三百餘頁の大さなものなり。吾人は素人も本の素人なれば批評と云ふが如き太それた事は出來ず、僅かに讀みもて終りし後、あれこれと心に殘る廉々を聊か言はんと思ふなれ、殊にその大村次郎なる青年につき、或は信夫子との戀愛につき、もしくは著者の思想につき且筆につき、多少の[illegible]を叙べんとはすれ、何れば

それも次回に譲りて今は其大體に就て一言せん、脚色はかの金色夜叉に似かよひて、而かも心理を描くに彼の如からずして曚朧の影多し、之れ或は「宗教」の妨げならんか其妙を致せるは第七章中の牛肉店の隣り座敷の景色にして、惜しきは會話の不妙なるべし。而して其第一章は寧ろ第拾四章以下の裏に容れられたらんにはその感やみ難し
代價四十錢京橋區五郎兵衞町文淵堂發行

●社會主義夏期講習會

來八月一日より十日まで麹町區飯田町（九段坂下）ユニバサリスト教會堂にて開會の筈會費金八十錢、講師及學課は左の如し

△社會主義史	田添鐵二
△法律論道徳論	幸徳傳次郎
△應用社會學歷史の目的基礎	若宮卯之助
△社會の起原	堺利彦
△社會主義經濟論	山川均
△勞働組合	片山潜
△東洋文學	村山白洋
△同盟罷工の話	西川光二郎
△他數名	未定

尚は講習會に關する用向は神田三崎町三ノ一社會新聞社に尋ねらるべし

ユニヴアサリスト

第二卷第七號十五日發行

進歩派基督教の機關紙（毎月二回發行）

要目

▲花の日曜日　赤司生
▲ブース大將論　ケート博士
▲時代の叫び　赤司繁太郎
▲幸福なる生涯　安部磯雄
▲基督の堙沒　赤司繁太郎
▲生活の價値　仝
▲基督教の過去現在未來　松村介石
▲寺院と貧民窟　西島積介
▲千人書伯展覽會　梅澤和軒
▲神の默示　吉野臥城

●一年分代金四十錢（一年分として八十錢送金者には村田勤譯『萬民救濟の福音』定價壹圓五十錢を進呈す）

東京小石川區小日向臺町二丁目二十七番地
發行所　世光社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

夏季の好讀物◉中元進物適當品

和田卍子編　北澤樂天畫

新西洋笑府

出版界空前の美本

七月一日發賣

西洋種の面白き一口噺集!!　和田卍子氏の輕妙なる筆に如何なる理屈臭き方も讀んで必らず吹き出さずに居れぬ本なり、加ふるに畫は北澤樂天氏獨特の筆になる精巧なる石版、コロタイプ版木版、寫眞版等大小七十餘個を挿入し本文と相俟つて妙言ふべからず

定價壹圓郵税八錢

東京麴町有樂町三丁目　**有樂社**　振替貯金三六〇番

●齒科治療●

自午前八時至午後六時

齒科醫 吉瀨才市郎

東京神田須田町二十一番地

●學生勞働者諸君に限り藥價手術料共半額●晝間執業者の便利を計り夜間十時迄治療仕候

各國語聖書、基督教書類其他一切新刊書類確實販賣

東京神田區鍋町二十五番地　振替貯金口座六三三〇番

中庸堂書店

時代の要求により生れたるカメリヤは色白くきめを細かに艶を增し肌を滑かならしむる最新最良の洗粉なり年若き方々のみならず老年の御肌には殊に効驗著し

定價　大瓶廿五錢　瓶入十二錢　袋入五錢　小袋三錢

本舖　ダイオン齒磨發賣元　東京神田柳原河岸　小林富次郎

根本正君譯　片岡健吉君序

日々の力

紙表紙三十五錢　クロース製五十錢　郵税　錢

本書は一月一日より十二月三十一日に至る、一年三百六十五日間に於ける、居家處世の大本を示したるものにして、毎朝其當日の部を一頁宛讀むべきものとす。世人之を續いて反復誦讀せんや、新氣力新生命は、自ら其の間に生じ來りて、爭鬪の快を得べし、故に愛書と等しく、一般家庭に必ず備へられんことを推薦す。

日本メソヂスト監督 本多庸一先生

說教集

紙質精撰 金六十錢 郵税入 錢

是非先生獨特の通俗的思想を以て、深遠の眞理を極めて平易に、懇切に、親しみせしもの、今日までありふれたる翻譯的口吻なく、先生特創の思想を以て、日本の人情に投合し、一言一句、餘韻嫋々として、感興措かざらしむ。請ふ一本を座右に置かれんことを。

バウン博士著　小山正武氏譯

基督教天啓論

一名聖書研究の要領　定價金二十五錢　郵税金四錢

今や世界は存在競爭の渦潮大濤は、滔々、激浪して地球を震撼しつゝあるにあらずや。此大試煉に堪ふて屈せず撓まず、奮鬪猛進向上し以て、各々其の靈的覺醒を完ふし、以て各々心靈の平和を永續し得べきの途は他に非ず、唯敬虔を以て聖書を活讀し、之を實行するにあるのみ。バウン博士の此著、極めて簡明、聖書研究の第一義を示せるもの、實に今日初心信徒の爲めに、不可缺的指針となるべきは此書也。

ウヰン、アール、セツト氏述　瀧浦文彌君譯

活ける基督信徒

定價金三十錢　郵税四錢

政治家庭セツト氏を知る者は多し、而かも靈活の氏を知る者少し、氏が十餘年、青年會幹事としての經驗に基きし本書は、正しく偉大なる人格の反映なり。之に依りて、其の今日あるに至りし所以を曉るは、爲に少なからぬ感化を認めざるを得ざるべし。諸君の購讀を乞ふ

ウヱルドン原著　美山婦人　田中榮女史譯

七日間

定價金三十五錢　郵税金四錢

道に迷ふた人の子が、たうとう愛の力によつて救はるゝ世にも美しい物がたりを、優しい筆に寫し出した此の本は、今の讀みものとして、極めて適當なものではありますまいか、迷ふ人も救はれた人も、是非一度は御讀みなさいませ。そして此の小さい一册の中に深いへと、盡きぬ慰めさを、御見出しなさるならば、譯者一人は苦心の空しからぬを喜ぶで御座いませう。

アスター、ライブラリー　新撰歌 百揃籍　定價九十錢　郵税八錢

テニソン、ウオルヅウオルス、ツルゲニーフ、カーライル、エリオツト、エマルソン、アービング、キングスレー、ラスキン、其他諸大家の名著澤山有之候品切にならざる内至急御注文を乞ふ

内外書肆 教文館

東京銀座四丁目一　電話新二五二六

應需肖像畫

神田區美土代町二丁目一番地

浦田鳥城

小兒科　内科　婦人科

毎日　自午前八時　至午後六時

淺草區馬道三丁目

小牧醫院

●高尚優美なる

女子高等師範學校教授 森本義子著

家庭編物全書

和装全一册　正價金八十錢　郵税金八錢

太田梅子著

女子技藝 果菜製作法

和製全一册　正價金四十五錢　郵税金六錢

英國醫學博士チエバーセ著　三樹女史譯

新婦の心得（再版）

洋装全一册　正價金五拾錢　郵税金六錢

赤堀峯翁　赤堀峯吉　赤堀菊子共著

即席惣菜料理（九版）

洋装全一册　正價金三十五錢　郵税金四錢

落合直文著　小野鷲堂書

女子消息 雁のゆきかひ（新刻）

和装全二册　正價金八十錢　郵税金六錢

關根正直編

文範 筆のあや（再版）

和装全一册　正價金四十五錢　郵税金六錢

東爽五郎著

新案 家計簿記

洋装全一册　正價金七十錢　郵税金八錢

宇野彌太郎　渡邊鎌吉　共著

家庭西洋料理

洋装全一册　正價金九十五錢　郵税金八錢

圖書總目錄郵券二錢送附あれば呈す

●中元進物用佳品

●發行所 日本橋區通一 大倉書店　賣捌各書店

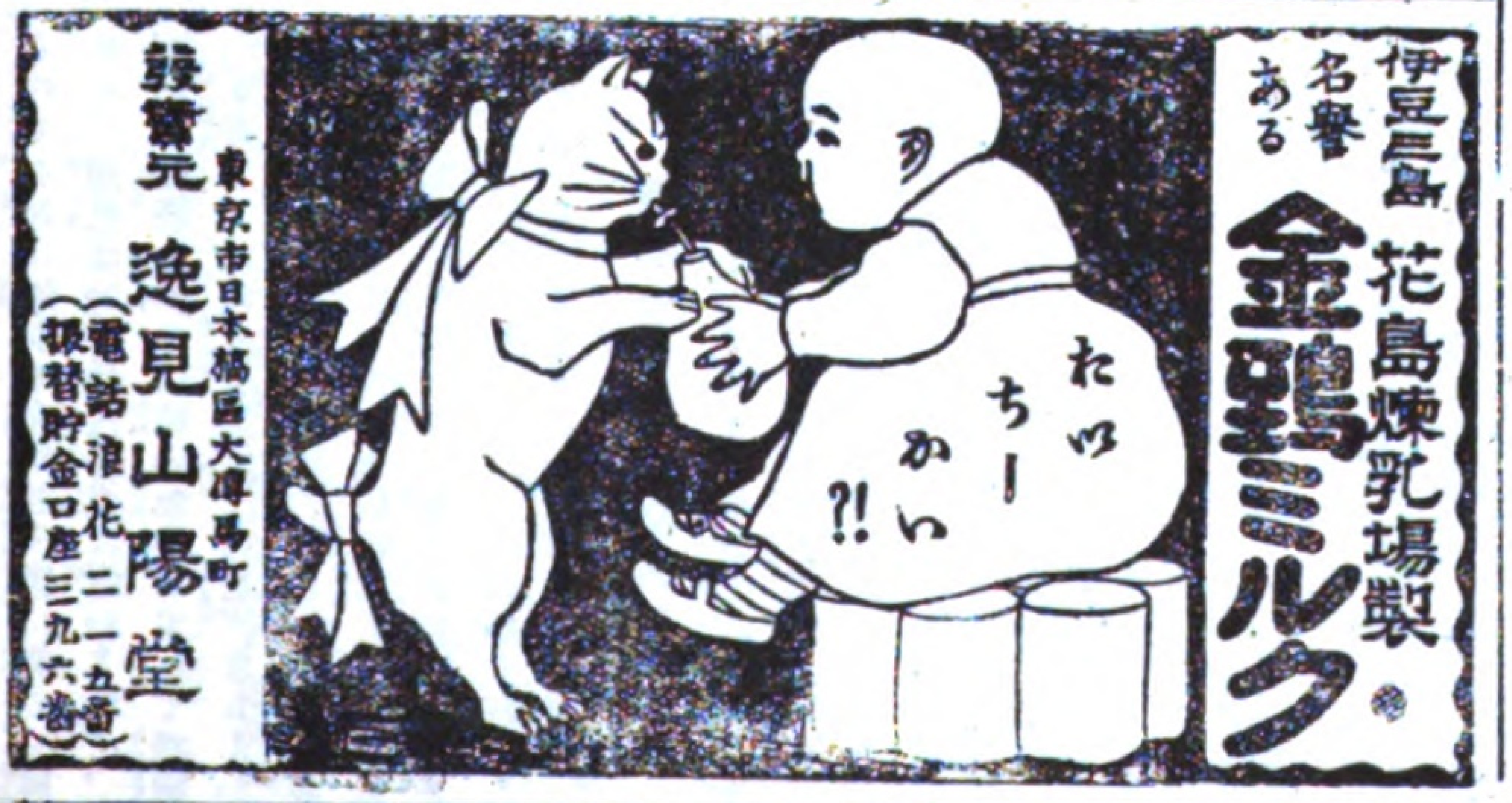
新築落成移轉

小兒病　内科　外科　診療

府下淀橋町角筈（水道前）

淀橋醫院

竹下繁太郎



◎定價
△一部四錢五厘、十部四十二錢、二十部八十錢
△申込は總て前金の事、△郵税當方持

編輯兼發行人　神崎順一　東京府豐多摩郡淀橋町字角筈七三八番地

印刷人　遠藤友四郎　東京府豐多摩郡淀橋町字角筈七三八番地

發行所　世界婦人社　東京府豐多摩郡淀橋町字角筈

印刷所　博眞堂　東京神田區雉子町二十四番地

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY